

MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT



マミヤカメラクラブ

マミヤカメラクラブはマミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会いただける写真クラブです。
マミヤカメラクラブ会報誌 (Mamiya Gallery) の発行 (原則年2回)。プロ写真家による撮影会・勉強会・セミナーの開催。webギャラリーで会員の作品展示。マミヤ製品修理・点検料金の割引等と会員特典もたくさんあります。マミヤカメラに関する情報、会員相互の親睦と写真技術向上をめざし、素晴らしい写真の世界をご堪能ください。



入会費用

入会金 1000円 (税込)
年会費 3000円 (税込) ご入会日より1年間。
※但し2年分の年会費をご入会時にお納めください。

特典

- マミヤカメラクラブ会報 (Mamiya Gallery) の発行。
- クラブ撮影会の開催。
- 勉強会・セミナーの開催。
- ホームページ上に会員作品ギャラリーの開設。
- マミヤ製品修理・点検料金の割引。
- 会員証、オリジナル会員バッジ提供。
- オリジナル会員名刺制作 (有料)。

マミヤ・デジタル・イメージング株式会社

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-2-2 ココタイラビル 1F
TEL.03-6748-1983 FAX.03-6748-1991

製品・修理に関するお問い合わせ、東京サービスセンターへご相談ください。

- 修理をはじめオーバーホール、清掃等を承ります。
- 東京サービスセンターショールームにはマミヤ全機種を展示しています。
- 実際に製品を手にとって操作感や質感を確かめられます。また、選定のアドバイス、操作上の疑問にもお答えしています。
- 電話、ファックスでも承ります。

東京サービスセンター

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-2-2 ココタイラビル 1F
TEL.03-6748-1983 FAX.03-6748-1991
営業時間 9:00~17:50 土、日、祝日は休業



修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。

マミヤカメラ認定修理センター

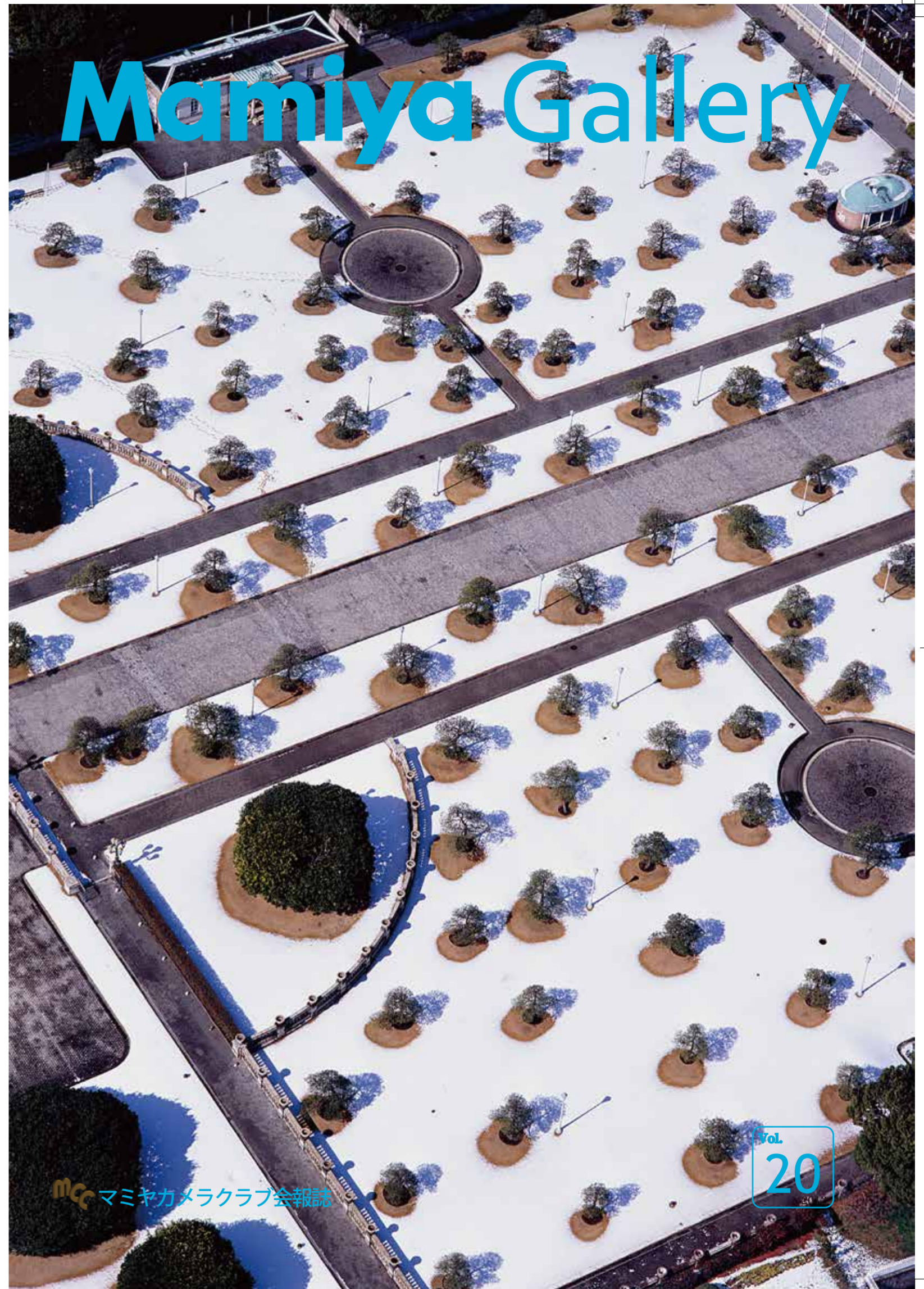
※マミヤカメラ認定修理センターでは、製品の説明に関する業務はいたしておりません。

- 北海道地区 株式会社タック・カメラサービスセンター：〒060-0053 札幌市中央区南3条東4丁目
TEL.011-221-8507 FAX.011-232-3344
- 東北地区 MC フロテック：〒983-0841 宮城県仙台市宮城野区原町5-3-44 森ビル202
TEL.022-297-3846 FAX.022-256-1808
- 東海地区 山田テクニカルサービス：〒496-0026 愛知県津島市唐白町大門99
TEL.0567-32-2708 FAX.0567-32-3454

マミヤカメラクラブ事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 ワイズビル 株式会社ワイズクリエイイト内
TEL.03-5689-2776 FAX.03-5689-2786
E-mail :info@mamiya-club.com

マミヤカメラクラブホームページ <http://www.mamiya-club.com/>



マミヤ7IIで撮る。航空写真のすすめ！

カメラマンの誰でもが一度は経験してみたいと思う「航空写真」。「カメラは？飛行機は？撮影技術は？」と疑問がいっぱいです。

今回の特集はそんな航空写真について実際に大判カメラで撮影している叶悠真さんの撮影現場を訪ねて撮影方法や航空写真の醍醐味等をお聞きしました。特に航空写真用にマミヤ7IIカメラを使用していますので、会員の皆様にとっても航空写真撮影が現実になるかもしれません。それではまず叶悠真さんがどの様にして航空写真と出会ったのか？からインタビューしてみたいと思います。

Q 航空写真と出会ったきっかけは？

—— 数年前ですが大判カメラを始めて大判カメラのアクセサリを購入しようと本郷にあるワイズクリエイトを訪ねました。そこで航空写真家の芥川善行先生の大きな航空写真カレンダーを頂きました。更にその数週間後にワイズクリエイトで芥川先生ご本人とお会いする事が出来ました。先生から航空写真撮影のお話を聞きしたり、航空カメラを見せて頂いたりしているうちに航空写真への憧れが大変強くなってしまいました。そこで、知人が経営するニュージーランドのワイナリーの航空写真を撮影しようと、115キロもの機材を持って現地に飛びヘリコプターで撮影したのが最初でした。その後、芥川先生から調布飛行場にあるセスナを所有する航空会社をご紹介頂き、それから今までセスナに90時間以上も乗っています。

Q どのような場所を撮影されていますか？

—— 国内をセスナで始めて飛んだのは猿島や第一海堡がある東京湾でしたが、その後は三浦半島、真鶴、箱根、房総半島、大島、蔵王、御岳山、都内でも上野公園、不忍池、代々木公園、高幡不動、東京スカイツリー、新宿御苑、根津神社など数えきれません。面白い所では浅草サンバカーニバルや真岡鉄道のSL、東京大学などですが最近は四季の尾瀬を撮影に行っています。



叶 悠真 (かのう ゆうしん)
1954年熊本生まれ。
日本リンホフクラブ会員。
ワイズ大判写真の会会員。
マミヤカメラクラブ会員。
大判カメラで日本各地の航空写真を撮影。
マミヤ7II/リンホフ2000/3000/
エアロテヒニカ/エアロタック等所有。

Q 航空写真の機材は？

—— デジタルカメラで撮影すれば簡単なのですが、フィルムの持つ何とも言えない再現性に拘っています。絶対に違いますよ！それも情報量の多い大判カメラをメインに使用し、サブに中判のマミヤ7IIを用意しています。大判カメラは最初リンホフ2000の蛇腹部分に自作の風防を付けたりしていましたが、その後、航空写真専用カメラのエアロテヒニカとエアロタックを導入し使っています。撮影は難しく使いこなすには相当に時間がかかると思います。始めて使うのならばマミヤ7IIは最適だと思います。ブレの無いレンズシャッターだし150mm1本付けておけばそれなりの航空写真が撮影できると思います。お薦めです。



使用機材のマミヤ7IIとリンホフ2000(改)。

Q 航空写真撮影の秘訣は？

—— 未だ飛行時間90時間の経験からですが撮影前日には良く睡眠をとりお酒を控える事。機材は点検を怠らない事等です。また撮影する被写体をイメージし飛行前に航空地図やグーグルアース等で確認する事をお勧めします。



調査は完全に。撮影イメージをデッサンする。



大山千枚田上空 マミヤ7II210mm F11 1/500 velvia100

特に私の場合は撮影イメージを事前にデッサンして頭の中に叩き込んで行く場合が多いです。もちろん天気も大きなファクターですから天気図を読んだり情報収集を心がけます。またパイロットとのコミュニケーションも大事ですから飛行プランの確認や「何を撮りたい！」という事を明確に伝える必要もあります。

Q マミヤ7IIでの航空撮影は？

—— 航空法がありセスナの高度を300m以下に落とすことができませんので150mmや210mmを無限に合わせて撮影してください。大判カメラと違い220フィルムを入れておけば20カットも撮影できます。また露出は出来るだけ1/500の高速シャッターをきりたい

ので、現像はプラス2の増感現像をする事をお薦めします。マミヤのレンズはコントラストがきちっと出るので航空撮影には最適ですね。

Q これから航空写真を撮影する人へ一言？

—— 撮影したいと思ってもどの様な機材を揃えて、どうやって飛行機を予約するのか等、最初は全く分からないと思います。私の場合、芥川善行先生や調布飛行場でベテラン航空写真家のアドバイスがあったからこそ、曲り也にも作品らしいものが撮れていると思います。もし航空写真を撮影したいとお思いならば、微力ながらご協力致しますのでマミヤカメラ事務局(ワイズクリエイト)にお申し出ください。

密着 レポート 航空写真撮影の実際

航空写真撮影で一番解りづらいことは飛行場内のことと思います。どの様なタイムスケジュールで実際の撮影が進められているかを叶悠真さんの撮影に密着レポートを試みました。(木戸)



今回、叶悠真さんが飛行予約されたのは調布飛行場にあるアイベックスアビエーションと言う航空会社でした。



予約の時間より早めに着いて自動車より撮影機材を降ろします。



事務所に入ると先ず受付をします。待合スペースにはコーヒーの用意もあり快適です。



事務所内にはパイロットスクールが併設されているのでセスナのシミュレーションマシンもあります。



さて、叶さんは今回撮影する機材のリホフ2000 改とマミヤ7 II を用意してパイロットを待ちます。



マミヤ7 II はレンズシャッター採用のため航空写真撮影に最適なカメラです。航空地図も一緒に用意しています。



今回担当頂くのは同社のベテランパイロットの澤井広道さんです。入念に飛行プランを打ち合わせします。



打ち合わせ終了後に機材を持って格納庫経由で飛行場に向かいます。大きな飛行機もあります。



調布飛行場には沢山の飛行機が駐機していて圧巻です。



飛行場関係者と楽しそうに話しながら予約のセスナに向かいます。



セスナ胴体のこんな所に荷物収納スペースがあったんですね。慣れた手つきで収納します。



セスナの前でお決まりの記念撮影です。手にはマミヤ7 II が光ります。



ちょっとパイロットスペースを覗き込むと、あまりの狭さにビックリ！数十年前の軽自動車の運転席のようです。



叶さんが乗るのは後部座席です。窓は一面のみ開けることができますが、それにしても狭い！



澤井パイロットが仕業点検をしています。



後部座席では最後のカメラチェック。普段は明るい叶さんもこの時は真剣そのもの。



既にエンジンが掛かりプロペラが回っています。管制塔の離陸許可を待ちます。



滑走路誘導員の指示で離陸コースに徐々に移動します。



所定の位置に着き滑空していきます。



「よしやったぞ！」機体が浮かび上がります。



見事離陸しました。見る見る機体が小さくなって行きます。



この日、航空写真撮影のために飛んだのは千葉県の大山千枚田上空他でした。



因みにこの2枚のセスナ飛行写真は以前にワイズクリエイト上空を飛んだ時に撮影したものです。



約1時間半の撮影を終えて無事調布飛行場に戻って来ました。



所定の駐機スペースまで誘導員が誘導指示します。



駐機を終え機内から叶さんが出てきました。機材も忘れずにピックアップ。



事務所に戻った葉さんの姿を以前見た映画の「トップガン」をイメージしてスナップしてみました。格好いいですね。



にこやかな表情で事務所に戻ってきた葉さん。きっと良い作品が撮れたのでしょう。



この日のメインは大判カメラでしたが、しっかりとマミヤ7 II でも220フィルム3本を消化。60カットも撮ったんですね。



点検を終えて戻って来た澤井パイロットから今日の請求書をもらいます。因みに1分幾らの金額になります。



支払いも終了し今度は澤井パイロットと事後ミーティングです。飛行機模型を使いながら説明する澤井パイロットの表情もにこやか。



撮影、ミーティングも終了したところで再度アイベックスアビエーション社前で記念写真です。ご苦労様でした。

航空写真ワークショップ計画中！

マミヤカメラクラブ事務局、日本リホフクラブ事務局、ワイズ大中判写真の会を運営するワイズクリエイトでは手軽にチャレンジできる航空写真ワークショップを計画しています。詳細等はこれから詰めなければなりません興味のある方は是非事前登録をお願い致します。登録イコール参加ではありません。どの位の希望者がいるかでワークショップ催行の基準とさせていただきますのでご協力ください。

株式会社ワイズクリエイト



暫し、
鳥になって・・・



上野不忍池
つつじ祭りの根津神社
東京湾第一海堡
※表紙：雪の迎賓館
曲がった東京タワー
荒川と隅田川を仕切る岩瀬水門



昭和記念公園プール
露地野菜畑の続く三浦半島
紅葉の高尾山
真岡鐵道
初冬の尾瀬ヶ原

「自然の中で山岳・風景写真を撮り続けたい・・・。」

飯塚光男さん



中学生の時に父親にベトリ 35 というカメラを買ってもらったのがカメラとの出会いです。ですから50年以上のカメラ歴になります。そのカメラを持って当時住んでいた近くの隅田川に行って波紋等を造形的に撮影していました。大人になってからは35ミリ一眼レフ、中判ハッセル、大判リンホフと使いこなしてきました。20年ほど前ですが山の仲間が中判カメラを買うときに「何が良い？」と相談があったので迷わず「フィルムバック交換ができるマミヤが良い！」とマミヤ645AFを勧めてしまいました。それなのに私がマミヤカメラを持っていない訳にはいかないと「645PRO」「RB67」「RZ67」「MAMIYA6」「MAMIYA7」「MAMIYA7II」と次々に購入してしまいました。やはりマミヤの一番良い所はフィルムバック交換が出来ることでフィルムの種類を撮影中に換えて楽しめました。また「MAMIYA7II」はレンズが凄く良いです。色再現も大満足です。その他にも外国製のカメラと違いメンテナンス費用が掛からないし、仮に修理の時もマミヤ社では直ぐに対応してくれます。マミヤカメラの中では「RB67」「RZ67」を使う頻度が多いですが、今後も自然の中で山岳・風景写真を撮影して写真ライフを楽しみたいと思います。



2008.12.18 奥日光 湯ノ湖 RZ67 II 100-200mm F16 1/60 RXP



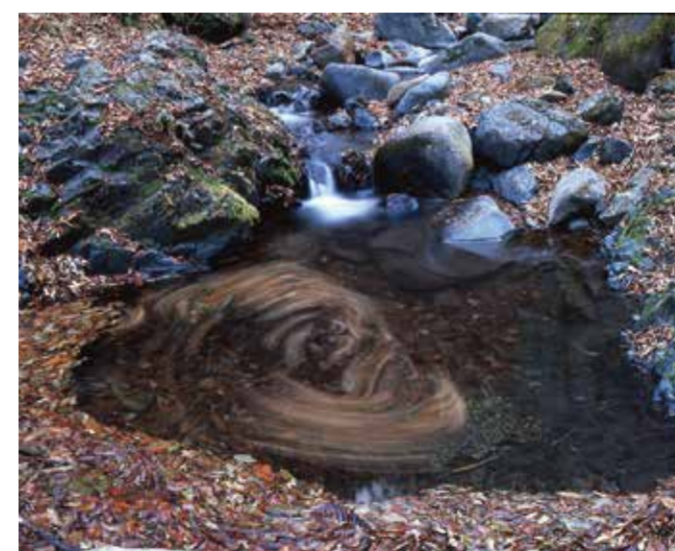
2010.4.7 岐阜県飛水峡 RZ67 II 50mm F32 2" RVP50



2010.2.26 福島県北塩原 RZ67 II 500mm F45 1/4 RVP50



2008.10.28 山形県小国町 RZ67 II 100-200mm F32 1" RVP50



2008.11.6 山梨県小菅村白糸の滝 RZ67 II 90mm F32 30" RVP50



2010.2.26 福島県北塩原 RZ67 II 500mm F45 1/4 RVP50

マミヤカメラユーザーを訪ねて。

「水辺彩る」

全ての水は地球上の生きる源である。
水辺では草、樹、石までが悠久の時を演出している。



飯塚 光男 (いづか みつお)

1941年東京生まれ。東京都八王子市在住。
マミヤカメラクラブ、日本山岳写真協会、
日本リンホフクラブ、ワイズ大判写真の会
会員。中判・大判カメラで山岳・風景写真を
撮影。mamiya 6.、mamiya7.、mamiya7 II.、
RB67.、RZ67 所有。



2009.9.20 八甲田代平
RZ67 II
APOZ250mm F32 1/8
RVP50

ゆっくり、ゆったり歩く菊坂辺り。

日本の近代史の開化期を彩る明治時代の文豪、俳人たちの歩いた道を歩き出しましょう。変貌し続ける東京で、本郷の街の変化も例外ではありませんが、戦災をまぬがれた建物がここに残る菊坂周辺は、この坂、この路地で名作の数々が生まれたのかもしれない、などと思いついていくといつの間にか昔にタイムスリップしているような感覚におちいります。菊坂辺りは手持ち撮影や一脚を使いスピーディな撮影するが適しています。レンズも広角系のレンズを用意してスナップ感覚で。



《菊坂の木造三階建》
菊坂沿いの木造三階建住宅。菊坂下道と菊坂の段差を利用して三階建にしています。



《菊水湯》
菊坂下道沿いにある、現在では珍しくなった唐破風建築の銭湯で、現在の建物は昭和初期に建築されました。浴場には雄大な富士山が描かれています。今でも地下水を汲み上げ薪で湯を沸かしています。



《菊富士ホテル跡》
明治 29 年に菊坂町の長泉寺境内に下宿屋菊富士楼を開業。明治 40 年隣地に三階建の別館を建築。大正 3 年に東京大正博覧会による外人客を見込み東京ホテル、帝国ホテルに次ぐ菊富士ホテルを増築。地上三階地下一階、屋上に塔の部屋を持つ 30 室の新館を建築。このモダンな高等下宿に宿泊した人たちは、外人客よりいつの間にか作家・芸術家が止宿し名作を生み出すこととなります。戦争末期の昭和 19 年廃業し売却され、翌年東京大空襲で焼失。宇野浩二、尾崎士郎、宇野千代、石川淳、直木三十五、広津和郎、竹久夢二、谷崎潤一郎、宮本百合子、高田保、坂口安吾、大杉栄、伊藤野枝、月形竜之介など多彩な人物が止宿しました。



《石川啄木の喜之床跡》
石川啄木は明治 41 年北海道から上京し旧菊坂町の赤心館、蓋平館に居住し、42 年朝日新聞の校正係となり、喜之床という理髪店の二階二間を借りて家族揃っての生活が始まりました。しかし生活との戦いなど失意の生活が続きました。はたらけどはたらけど 猶わが生活案にならざりどっと手を見る (43 年) 啄木の最もすぐれた作品が生まれたのはこの喜之床時代でした。昭和 53 年に解体され犬山市の明治村に移築保存されました。



《坪内逍遙旧居跡》
坪内逍遙は、炭団坂のすぐ右上のこの地に明治 17 年に移り住み、「小説神髓」を発表、「当世書生気質」を創作しました。明治 20 年同じ町内に移転後、旧伊予藩主久松氏の育英事業として「常盤会」という寄宿舎となり、学生時代の正岡子規、河東碧梧桐も寄宿しました。



《宮沢賢治旧居跡》
宮沢賢治は花巻市から上京し東京大学赤門前にあった印刷会社で勤務。この時期に間借りしていた家が、平成 2 年末まで残っていた二軒長屋です。ここで童話、詩歌の創作に専念した。童話集『注文の多い料理店』に収められた『どんぐりと山猫』『かしはばやしの夜』などがこの地で作られたとされています。



《徳田秋声旧居》
徳田秋声は明治 35 年より、昭和 18 年に 73 歳で亡くなるまでこの地に住んでいました。徳田秋声の本格的な創作活動はここで始まり、『新世帯』『徴』『あらくれ』などの数多くの名作を生み出しました。庭の業平竹は同じ金沢出身の室生犀星から贈られたといわれています。



《蓋平館跡 (太栄館)》
石川啄木、北原白秋、木下玄太郎、吉井勇や平野万里などがここに入りした。前の坂を新坂を、スバルの坂と言う人もいます。

菊坂 辺の沢山の坂には歴史が刻まれる。

本郷・菊坂とは本郷三丁目交差点の本郷通りを巣鴨方面に歩き最初の道を左に折れる坂道のことを言います。元々本郷は本郷台地の上にあるので台地から下りる道や川、雨で浸食されて出来た多くの道が坂となっています。その坂が歴史を背景にいろいろな名前を付けられて今日に至っています。



《見送り坂と見返り坂》
本郷 3 丁目の交差点から赤門寄りの文京センター前 (菊坂へ曲がる) の本郷通りがややへこんでいます。江戸時代はかなり低かったそこに橋を架して別れの橋と言ったそうです。江戸追放の罪の者がこの別れの橋で放たれ、南側の坂で涙で送ったから見送り坂、追放者が振り返ったので見返り坂と呼ばれました。



《石坂新坂》
江戸時代に近くの坂より新しいので『新坂』と名付けられる。坂上の蓋平館別荘 (現太栄館) に石川啄木が明治四十一年に移ってきました。宿は昭和二十七年に焼けた。宿の前に歌碑があります。



《胸突坂》
昔はこの胸突坂を菊坂と呼んでいたと言います。昔の江戸絵図には現在の胸突坂 (現太栄館) に石川啄木が明治四十一年に移ってきました。宿は昭和二十七年に焼けた。宿の前に歌碑があります。因みに同名の坂は文京区内に 3 つあります。



《炭団坂》
真砂図書館の前を北へ菊坂へ下る急な坂道。由来は炭団などの商う者が多く住んでいた所と急な坂で往来の人々が炭団のように転んだという意味があるとか。坂上の東角の崖上に坪内逍遙が住んでいました。

《炭団坂》
「此辺一円に菊畑有之、菊花を作り候者多住居仕候に付き、同所の坂を菊坂と唱へ。坂上の方菊坂台町、坂下の方菊坂町と唱候由」とあります。今は本郷通りの文京センタービルの北横から西方 1 丁目の台地の下までの長いだらだら坂を菊坂と言っています。



《本妙寺坂》
今は移転して無いが、江戸時代の振袖火事 (明暦の大火) の火元として有名な本妙寺が在った事から本妙寺坂と呼ばれるようになりました。遠山の金さんや千葉周作の墓がありました。



《梨木坂》
昔、この坂通りに梨の大木が在ったとされることから命名。また商家等も多く付近には学生の寄宿する下宿屋も多かったそうです。



《鐘坂》
菊坂の狭い谷に下る坂で菊水湯の近く。「鐘坂は御弓町より丸山へ下る坂をいひ、往古この処に武蔵鐘を製し初めしもの子孫ありて鐘を作るゆへ坂の名とすといへり」とあります。鐘は馬の鞍の両側に下げて乗る者が足をかける馬具の事。一説には坂の形が鐘に似ているともあります。

《鐘坂》
菊坂の狭い谷に下る坂で菊水湯の近く。「鐘坂は御弓町より丸山へ下る坂をいひ、往古この処に武蔵鐘を製し初めしもの子孫ありて鐘を作るゆへ坂の名とすといへり」とあります。鐘は馬の鞍の両側に下げて乗る者が足をかける馬具の事。一説には坂の形が鐘に似ているともあります。



《菊坂コロッケ》
菊坂のまるや肉店では、菊坂コロッケと命名した熱々のコロッケを販売。1 個ずつ小袋で購入できますので菊坂散歩の合間には是非お試しください。1 個 100 円。

東京大学。 日本初の大学として本郷に。



本郷のランドマーク、東京大学。

本郷と言えば最初に「東京大学」を思い浮かべる方は多いと思います。「東大正門」「赤門」「安田講堂」「三四郎池」などあまりにも有名ですが実際に訪れた人は少ないのではないのでしょうか。また東京大学前の本郷通り、春日通りを通っても「勝手に入ってはいけない」と思い素通りするする方も多く聞きます。今や開かれた大学の東京大学は誰でも構内に入る事が出来ますので是非訪れてください。東京都心でこんなに歴史と四季を感じる事が出来る場所は数少ないと思います。絶対お勧めですよ。

《学生・教職員2万人の大学》

東京大学は教職員、学生合わせて2万人。敷地の大半が加賀百万石の前田家の上屋敷でした。ちょっと昔話をするとう幕末時の高等教育の中心は湯島聖堂と昌平坂学問所が主となっていました。当時は儒学が官学で、それに対し洋学の研究所は九段下の開成所（審書調所）と神田お玉が池の医学所（種痘所）でした。時代の流れで教育方針も儒学から洋学への転換が始まり開成所が大学南校、医学所が大学東校と改名（湯島聖堂を基準に南と東）。以後南校と東校がひとつとなり明治10年に東京大学として発足。本郷での東京大学は医学部から始まり法文理工学部が入り次に工科大学が入り現在の骨格をなします。1923年の関東大震災でキャンパスは壊滅。復興では医、法、文、理、工の5学部に加え農学部、経済学部、教育学部、薬学部が加わり現在に至ります。



《受験生の憧れは赤門》

赤門は將軍の娘を迎えるときの門で文政10年建立。同年11代將軍家斉の娘・溶姫は前田家13代齊泰に嫁入ります。將軍の娘が官位三位以上の大名に嫁した人、その居所を御守殿と称しました。齊泰が安政2年に中納言に任ぜられ溶姫は御守殿となり門も御住居表御門から御守殿門と称されます。切妻造本瓦葺、三間の薬医門で朱塗りの木部と黒金具、その左右に唐破風造の番所を置いています。屋根瓦には葵の紋、梅鉢の紋、まだ解明されていないが大中小の學の文様があります。大御門の黒門に対して赤門と呼ばれ赤門は焼けたら再建を許されず加賀萬（消防隊）が守護していました。



東京大学の門

とても広大な東京大学の門は赤門だけではありません。その幾つかを下記に紹介致しますが、果たして実際には幾つあるか実際に構内散策をしてお確かめください。



《東大正門》
本郷通りに面している正門は、門衛所も合わせて有形文化財として登録されています。24時間通行可能です。



《弥生門》
浅野キャンパスや根津、千駄木方面にはこの門を利用します。門扉が新しくなっています。残念。



《池之端門》
上野、池之端方面の出口はこの池之端門を利用。不忍池にも近いです。



《春日門》
近年改築された春日門。以前は鉄の扉でした。



《西片門》
本郷通り沿いで正門と農学部間の門。比較的新しい門です。



《懐徳門》
懐徳門も綺麗に整備され門の脇には懐徳館の基礎部分が展示されています。



《農学部正門》
弥生キャンパスの正門。とても大きな風格ある門です。



《龍岡門》
東大病院への入口でもあり、バスやタクシーもこの門を利用します。



《鉄門》
東大病院から無縁坂方面に出る門。鉄門自体は昔からの門ですがこの門は最近開設。



《三四郎池》
大坂城落城後、加賀藩前田家が現東京大学の敷地を幕府から賜った。寛永3年三代・前田利常の時に三代將軍家光訪問の内命を受け殿舎・庭園の造営にかかった。外様大名として幕府に誠意を示すため大工事が行なわれた。国元から職人・農民を召集して三年を要して造られた庭園が育徳園と呼ばれ、池は心字池といい八景八境の勝があり築山小亭を設けて数奇を極めたとされます。当時の江戸大名庭園の中で第一と称された。夏目漱石の名作『三四郎』の小川三四郎と里見美禰子との出会いの場がこの池のほとりで心字池は誰言うとなく三四郎池と呼ばれるようになり現在に至ります。





《東大と銀杏》

東大校章のバッジは銀杏の葉を二枚組み合わせたデザインです。東大と銀杏は切っても切れない関係ですが、工学部前広場の大銀杏は巨木としても有名。



《総合図書館》

東京大学・本郷キャンパスにある東大最大級の総合図書館。



《安田講堂前大クスノキ》

安田講堂前には左右対称の位置で大クスノキが鎮座します。都内でこれだけの巨木を見つける事は出来ないと思います。1本でもまるで森の様な大きさです。



《東大地震研究所》

今最も注目されている東京大学の附置研究所で地震学、火山学などを中心に幅広い分野の研究が行われています。



《中央食堂》

安田講堂前の芝生広場の地下にこんなに大きな食堂が在ることを知らない人は絶対にビックリ。一般利用も可能なので安くてボリュームのある学食に一度はチャレンジしたい。



《東大の桜》

本郷より東の「上野の桜」が有名ですが、東大構内にも桜が沢山あり東大生、東大関係者、地元の人にとっては隠れた桜の名所になっています。上野の山では花見の場所取り合戦が行われていても、ここではゆっくり花見が楽しめます。特に龍岡門から入って左側の桜が人気。



《季節の彩り・銀杏並木》

東大正門から安田講堂に続く道には大きい銀杏並木が続きます。12月上旬には黄葉し、落ち葉は黄色い絨毯を敷き詰めたようです。



《最大の銅像》

本郷キャンパス最大の銅像。この銅像の主は東京帝国大学総長の座に2度にわたって就いた浜尾新氏（1849-1925）。



《留学生》

東京大学留学生センターの開設も行い多くの国から留学生を受け入れています。構内では多数の言語を耳にします。



《総合研究博物館》

総合研究博物館は国内初の教育研究型ユニバーシティ・ミュージアムとして誕生しました。総合研究博物館に収蔵されている学術標本は300万点を超える数にまで達しています。



《医学部付属病院》

東大医学部付属病院の外來棟の上層壁面には幾つかの大きなレリーフがあります。古代ギリシャから漢方、蘭学までの医学に関するデザインとなっています。

参考文献・引用：文京区教育委員会発行「ぶんきょうの坂道」「ぶんきょうの史跡めぐり」



《藤棚》

正門と赤門の間にある藤棚はちょっとオシャレな空間で、5月の藤の花の季節には開いた本の上に花びらが舞い落ちなんともよい雰囲気を感じ出します。



《構内のコンビニ》

学生、教職員合計2万人が集まる東大キャンパスは一つの町と言っても過言ではありません。コンビニ、床屋、レストラン、コーヒーストックもあります。



《懐徳館・懐徳園》

東京大学の迎賓館。明治に建てられた和館、洋館とも東京大空襲で消失。1951年に和風建物が建築され懐徳園という和風庭園と合わせて今日に至っています。



《東京帝国大学のマンホール》

東京大学の前進は東京帝国大学。キャンパスの中で唯一名前が残るのがマンホールです。貴方は何種類の東京帝国大学マンホールを見つけることが出来ますか？



《コミュニケーションセンター》

東京大学と社会の双方向的連携を推進する同センターはコミュニケーション・マークグッズ類の販売や研究成果の展示などを行っています。



《東京大学キャンパスガイド》

東京大学の事はこの一冊でわかります。東大生協でも販売中。お勧めです。（東京大学出版会 1890円）

workshop

マミヤカメラクラブ本郷界隈ワークショップ

本郷界隈は多くの文人が暮らした街として有名ですが、往時のメインストリート本郷・菊坂には5千円紙幣の肖像画にもなった樋口一葉が暮らしていました。当時一葉が使った戸も残るまで明治にタイムスリップしたようです。また本郷は東京大学のある場所としてもおなじみです。日本で初の大学として旧加賀藩上屋敷に設立されましたが、構内には安田講堂や赤門があり、三郎池あたりは東京都心とは思えない自然の多さで四季折々楽しめます。何故か懐かしさを感じる本郷の街をマミヤカメラを持って一日スナップ散策しませんか？

- 開催日 2012年4月7日(土) 10時~15時
2012年6月9日(土) 10時~15時
- 集合 マミヤカメラクラブ事務局(ワイズクリエイト)
- 案内 中村文夫
- 参加費 4,000円(税込)
- 定員 10名
- 撮影地 時間 内容



中村 文夫 (なかもら ふみお)

1959年生まれ。カメラメーカー勤務を経てフリーに。カメラ雑誌の執筆を中心に活躍中。写真教室、撮影会の指導、カメラ評論などマルチカメラマン。著書に「ラージフォーマット Part4」等。(現皇太子殿下のご学友だったとしても有名。)

- 10:00 ワイズクリエイト集合/オリエンテーション
- 11:00 ワイズクリエイト出発~本郷中央教会~かねやす~本郷薬師~十一面観音~桜木神社
喜之床跡~弓町教会~大クスノキ~ふるさと歴史館~坪内逍遙旧居跡~炭団坂~
宮沢賢治旧居跡~樋口一葉旧居跡~金田一京助旧居~鐘坂~菊水湯~胸付坂~伊勢屋質店~
長泉寺~菊富士ホテル跡~赤心館跡
- 13:00 昼食(付近のレストラン等)
- 13:40 本妙寺坂~金魚坂~東大赤門~法真寺~落第横町~徳田秋声旧居~求道会館~東大正門~
安田講堂~中央図書館~三四郎池~東大赤門
- 15:00 ワイズクリエイト着/まとめ/終了
- 備考 昼食費は個人負担となります。当日の天候等でスケジュールが変わることがあります。

本郷界隈マップ



ワイズクリエイトオリジナル本郷界隈マップです。
カメラ散歩、町歩きにご活用ください。

www.ycreate.co.jp

マミヤカメラで使う単体露出計

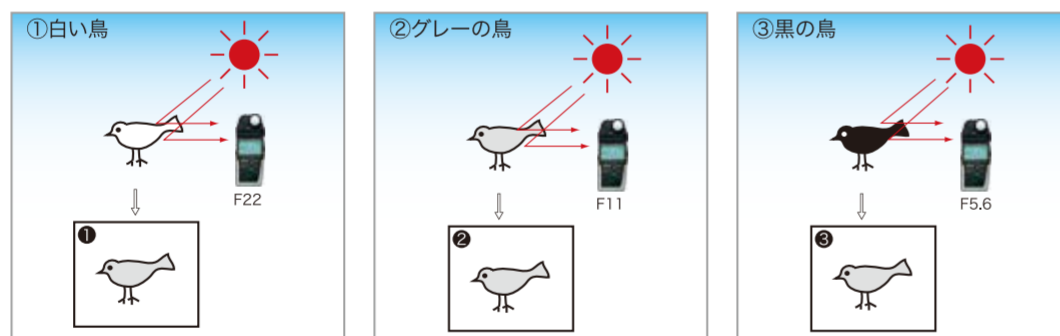
木戸 嘉一

現在のマミヤカメラには基本的には露出計が付いていますが、露出を理解する上でも今回は単体露出計を特集したいと思います。単体露出計の測光方式には反射光式と入射光式の二つの方法があります。例を挙げると、テレビ等でモデル撮影しているシチュエーションがありますがカメラマンがモデルの顔の位置に露出計を近づけ露出を計っているのを記憶していませんか？これが入射光式です。ところが私たちが使うカメラに内蔵された露出計では、カメラをモデルに近づけ露出を測光することはありません。遠い位置から露出を計りシャッターを切っています。これが反射光式です。この入射光式と反射光式の違いを理解して下さい。もう少し分かりやすく説明するために二つのイラストを用意しました。太陽の光などの定常光で犬に当たって反射した光（輝度と言う）を計るのが反射光式（イラスト①）。犬に当たる光（照度）を計るのが入射光式（イラスト②）です。この場合より正確なのが入射光式になります。それは直接被写体に当たった光を測光しているからです。反射光式の場合は被写体に当たった光を測光しているので被写体の反射率によって測光の誤差が出てしまいます。通常反射光式の露出計は被写体全てを反射率18%の標準的なもの（市標準反射板、グレーカード）として測定します。これは自然界のいろいろな被写体（いろいろなカラー）を全て測光し平均すると18%の反射率になるといわれるところからきています。分かりやすく例を挙げると雪を被写体と考えてください。手持ちの一眼レフやコンパクトカメラにリバーサルフィルムを入れて雪を撮影すると、露出の足りない写真が撮影されてしまいます。これはカメラが真っ白な雪でも18%反射のグレーとして認識し測光するからです。雪の白は反射率が高いので、1~2段階余計に露出を与えることが必要になるのです。これは露出計は色を読めず、全て18%反射率の被写体として認識していることからくる結果なのです。反対に黒い被写体を反射光式で測光する場合は、露出を抑えて適正に調整する必要があります。もし被写体の中に反射率18%のものがあればスポット測光し標準的な露出を求める事ができます。



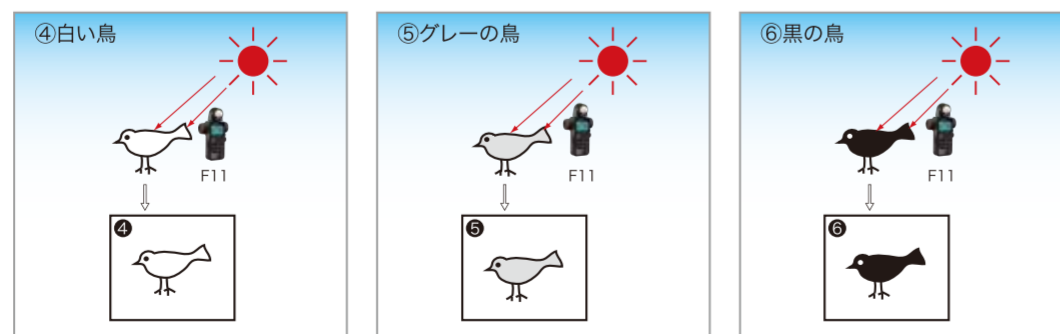
【反射光式露出計で測光】

それでは実際の撮影を行いたいと思います。下のイラストは太陽の光（全て光量は同じ）の下、①白い鳥 ②グレーの鳥 ③黒い鳥を同じ反射光式露出計で露出を測光しました。結果はシャッター速度優先で、①がF22②がF11③がF5.6という数値が出ました。この出た目のままの絞りで、撮影してみました。結果写真にはそれぞれ①②③のように全てグレーで撮影されています。従ってこの場合被写体の反射率（色）に応じてプラス又はマイナスの露出補正が必要となります。白い鳥が純白で反射率72%（18%×2×2）ならばプラス2段、黒い鳥の黒の反射率が4.5%（18÷2÷2）程度ならマイナス2段の補正が必要となります。



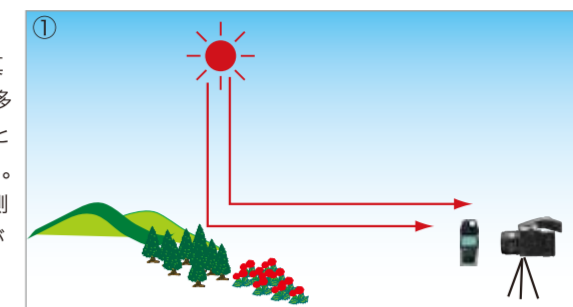
【入射光式露出計で測光】

次に同条件で入射光式露出計で測光してみます。④⑤⑥の鳥に当たっている光を測光していますので、全ての絞りは同一でF11となりました。この絞りで撮影した写真が④⑤⑥です。こちらでは各々の鳥の色が写真に反映されています。

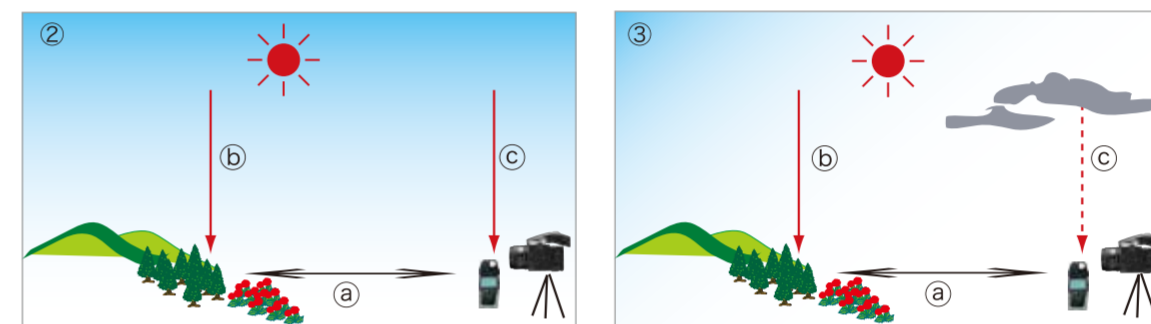


【測光方式の切り替えを活用】

反射光式と入射光式の露出測光の違いを理解頂いたと思いますが、風景写真撮影で多く使うのはやはり反射光式になっているようです。この理由として、多くのカメラマンは「山や森など遠景にある被写体を入射光式では計れない」と答えます。はたして本当にそうなのでしょうか？イラスト①を参照してください。カメラを構え、遠くの間と森を反射光式の露出計で測光しました。この場合測光角度1度の露出計だと、山や木々の濃淡のある色のどの場所で測光するかが問題になります。



こんな時イラスト②のように、露出計を入射光式に切り替え、カメラレンズの前で光球をレンズに向け測光してみてください。これでも適正露出が測光できます。これは山や森の被写体からカメラまでは相当な距離①がありますが、光源となっている太陽と被写体の距離②と、太陽とカメラの距離③は同じということです。ただしイラスト③のように雲等の影響で太陽から被写体への光と、太陽からカメラへの光との間に強弱がある場合はこの限りではありません。またこの方法を利用して、雪景色等の撮影では反射光式、入射光式両方で測光すると、両者間の露光量の違いが分り、反射光式の場合には露出補正が必要となってくる事が理解できると思います。

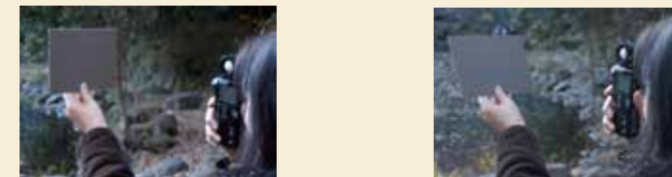


【18%標準反射板（グレースケール）の使い方】

18%標準反射板を撮影機材の中に入れておくだけで露出決定で困った時に大変役立ちます。イラスト④は雪だるまを反射光式露出計で測光しています。雪の反射率によって露出計の補正が必要になります。イラスト⑤は18%標準反射板を、露出計に平行になるように手で持って、反射板を露出計で測光します。これで適正露出を得ることができ、雪だるまが真っ白に撮影できます。ただしイラスト⑥のように標準反射板の角度が違うと適正露出は得られません。



◎グレースケールの正しい使用方法 ◎グレースケールが斜めになっていると適正な露出を測定できない。



※単体露出計、グレースケールはマミヤカメラクラブ事務局を運営するワイスクリエイトにて取り扱っています。

【入射光式露出計の光球と平板の使い分け】

入射光式露出計の受光部は写真のように、半球形の白い球がダイヤルにより出たり引っ込んだりするのが一般的です。また以前はイラストのようにこの半球タイプと平板タイプを交換して使用できる機種もありました。このような経緯から白い球が出ている状態を光球、引っ込んだ状態を平板と今は呼んでいます。人や花などの立体物を測光する場合には光球を使用します。写真はペットの犬を光球で測光しているところです。またポスターや絵画等立体物でない被写体の測光には平板を使用します。写真はプリントを撮影しようと平板で測光しています。各々使い方は被写体の前で光球又は平板を、カメラのレンズに真っ直ぐに向け測光します。



2011 report

▶▶▶花畑日尚先生指導 「真鶴撮影会」

2011年11月11日(金)~12日(土)に真鶴半島で花畑日尚先生指導による撮影会が開催されました。真鶴半島は神奈川県足柄下郡真鶴町にある小さな半島で、海岸は高さ20mほどの崖が続きますが、陸上にはマツやクスノキ、シイなどの常緑樹の大木とシダ類が生い茂る原生林が残されています。また、先端には写真家注目の名勝地・三ツ石があります。こんな沢山の被写体を撮影する為に真鶴半島を訪れましたが、11日は雨だったのです。普通の雨なら雨具を使って撮影を敢行したのですがこの日は大雨でした。それでも1~2時間の撮影を試みましたが、3時にはホテルに逃げ込む事態に。ホテル内で花畑先生の写真講習を頂きました。一同貴重な話をお聞きする事ができ有意義なひと時となりました。翌、早朝には参加者の思いが届いたのか雨も止み、暗いうちから三ツ石海岸に直行です。思い思いの写真を撮影し一旦ホテルに戻り朝食後、昨日のベンジとばかりに真鶴の森を撮影し無事撮影会が終了しました。



撮影用傘、レインウェア等で雨対策は万全ですが流石に撮影には時間が掛かってしまう。



この日はマミヤ・デジタル・イメージング社より荒巻さんが助っ人で参加です。心強いですね。



結局大雨を避けて森の中の探鳥小屋に避難。雨の中でも花畑日尚先生は積極的に撮影指導です。



大雨で早めに引き上げたホテルでは各々温泉に入りリフレッシュ。花畑先生の教室開催です。



翌日はすっかり雨も止み、今度は日の出を待ちます。



山岳写真で有名な花畑先生が海の近くで撮影指導する貴重なスナップです。



2日目は雨も止んで真鶴の魚付き林を被写体にポジション取りです。



初めてマミヤ7IIを使った参加者も晴れていれば、「使いやすいカメラです」の感想でした。



真鶴半島の森には各所に巨木が点在します。適度な広さのため撮影には最適の森と言えます。

会員限定：マミヤカメラクラブ web ギャラリーに貴方の作品を掲示しませんか？

マミヤカメラクラブのホームページ(www.mamiya-club.com)の中に、会員が作品を発表できるwebギャラリーを開設致しました。クラブ会員ならばだれでも展示可能ですから是非ご利用ください。

《マミヤカメラクラブ web ギャラリー掲載について》

ギャラリーはマミヤカメラクラブ会員ならば誰でも作品展示できるwebギャラリーです。ただし作品はマミヤカメラで撮影されたものに限ります。マミヤカメラクラブの会員ならばどなたでもwebギャラリーに掲載できます。下記項目をお読みいただきお申し込みください。

- (1) ギャラリーには15点迄作品をアップできますが追加する場合は最高30点迄で1点315円(1年間)の別途費用がかかります。
- (2) webギャラリーに申込される場合は画像サイズを長辺500pixel、解像度72pixelのJPEG又はGIFフォーマットで事務局迄お送りください。
- (3) 上記作品には名前(英文字)、番号(半角)を付けてください。(和文不可) 作品展示順はこの番号順となります。(例) kido001.jpg 又は kido001.gif
- (4) ギャラリーにはタイトルを付けてください。(例)「尾瀬の四季」「山岳写真あれこれ」
- (5) webギャラリーで使用する作者の略歴とポートレート写真を同時にご用意ください。(ポートレート写真の掲載不要の方は略歴のみ)
- (6) 作品をスキャンしてJPEG又はGIFフォーマットにできない場合は、スキャン作業を代行致します。この場合は1点につき315円がかかります。
- (7) ギャラリーの作品を変更する場合1点につき210円の費用がかかります。

※その他ご不明な事などは遠慮なく事務局にお問い合わせください。

▶▶▶吉野信先生指導 「本郷界隈ワークショップ」

2011年10月1日(土)、指導講師に吉野信先生をお迎えし「本郷界隈ワークショップ」はクラブ事務局を10時に出発し本郷薬師、櫻木神社、大クスノキ、炭団坂を通り菊坂・菊坂下道に入り樋口一葉の旧居、伊勢屋質店、長泉寺と往年の菊坂ストリートを中心に明治の面影が残る撮影スポットを回りました。昼食は明治の時代から東大生が通ったという「食堂もり川」に立寄り暫し東大生気分になり、そのまま東大構内に入り安田講堂、赤門等を積極的に撮影、無事ワークショップが終了しました。



吉野信先生はデジタルで撮影したスナップで撮影指導。



司馬遼太郎の「本郷界隈」でも紹介されている大クスノキには一同圧倒されました。



樋口一葉旧居周辺の家屋は明治を連想させる絶好のスナップポイントです。



東大構内に入るのは初めてという参加者が多く歴史建造物にカメラを向ける。



カメラ散策ならではのこんな楽しみも。テレビで有名な菊坂コロッセウを食べながらの休憩タイム。



この時代に地下水を汲み上げ新でお湯を沸かす菊坂湯は昭和レトロな感じが漂います。

▶▶▶大山謙一郎先生指導 「谷中・根津・千駄木界隈ワークショップ」

2011年12月3日(土)に開催された大山謙一郎先生指導の「谷中・根津・千駄木界隈ワークショップ」は生憎の大雨でしたが、予定通り10時にJR日暮里駅からスタートを切りました。谷中霊園には雨に洗われた銀杏の黄色い葉がまだ残り冬の到来の遅さを感じました。下町風俗資料館から谷中のヒマラヤ杉の辺りまで歩いてくると流石に雨の影響で一同疲労感が漂います。レストランに入り早めの昼食を摂って表に出ると、何と青空がのぞいています。その後、根津神社、へび道、谷中銀座をスナップ撮影しながら行程を延ばし日暮里駅で解散となりました。皆様、雨の中でも良い写真が撮れたようです。



歩き出して谷中霊園に入る時には大雨で、この先この様になるか全く想像できませんでした。



有名な谷中のヒマラヤ杉近くまで歩いて来ましたが、まだ土砂降りの雨が降っています。



テレビでも何回も紹介されている根津教会は根津神社近くにあります。



昼食後の根津神社境内ではこの通りの快晴です。傘をささずに撮影するのがこんなに楽だとは。



日暮里駅で解散。先生よりこの日撮影したスナップ2枚を直筆で講評添削する旨のうれしいお話が。



解散間際に通った谷中銀座では撮影も忘れて名物のメンチカツを口にほおぼりました。

八千穂高原撮影会

《新緑の白樺林と苔むす吐竜の滝》

新緑の白樺林と吐竜の滝、ピラタスロープウエイ山頂を撮影します。芽吹きはじめた白樺林の美しさとベニバナイチヤクソウの群生に心躍ります。吐竜の滝は雪解け水で水量が増し、苔の緑を一層引き立ててくれるでしょう。また、八ヶ岳・ピラタスロープウエイ車窓からは日本三大アルプスの眺望、山頂の箱庭では季節ごとに高山植物が咲き楽しませてくれます。

- 開催日 2012年6月15日(金)～16日(土)
- 集合 第一集合場所 マミヤカメラクラブ事務局
第二集合場所 東京駅八重洲口 八重洲ブックセンター前
- 指 導 近藤辰郎
- 参加費 38,000円(税込)
- 予 定 ○6月15日

8時30分・マミヤクラブ事務局(第1集合場所)集合・出発
9時・東京駅八重洲口ブックセンター(第2集合場所)集合・出発
着後・八千穂高原撮影

○6月16日
ピラタスロープウエイ、吐竜の滝撮影 14時・出発 16～17時・東京着

- 宿泊先 未定
- 備 考 移動はチャーターバス(中型)となります。
※スケジュールは天候、講師等の判断により変更される場合があります。
ご了承ください。



近藤 辰郎(こんどう たつろう)
1935年東京生まれ。北アルプス、後立山連峰と槍・穂高連峰周辺の撮影を続ける。山岳、アウトドア雑誌、写真集に作品を発表。著書に「日本の名峰 19 白馬岳と後立山連峰」「コンタツおじさんの北アルプス案内【北部編 / 南部編】」「八ヶ岳連峰(山と溪谷社)」「日本の山(毎日新聞社)」「北アルプス(実業の日本社)」「日本百岳(小学館)」「槍ヶ岳讃歌(山と溪谷社)」等々。

北八ヶ岳の八千穂高原は、日本一と言われる 50 万本の白樺林が群生しみごとく美しさを見せてくれる。レンゲツツジやベニバナイチヤクソウなどが咲く頃に白樺やミズナラ、カラマツの緑が一段と美しくなる。大石川の源流でもある八千穂高原頂上の白駒の池は苔と原生林が神秘的。また、「吐竜(どりゅう)の滝」は川俣川渓谷の中で最も美しく、岩間から絹糸のように、何段にも落ちる滝の姿は優美で神秘的でもあります。



撮影ポイントを説明するコンタツ先生。
※作品写真は近藤辰郎先生「八ヶ岳連峰」より。



残雪と新緑の月山撮影会

《最も美しい新緑のブナ林》

残雪とブナの新緑が鮮やかになる月山・志津温泉周辺のブナ林を訪ねます。撮影ポイントは何と言っても月山・志津温泉周辺のブナ林です。特にこの時期は残雪の中にとたずむ新緑のブナが魅力的です。更に霧など出たら言う事ありません。ここはゆっくりと三脚を構え撮影したいものです。

- 開催日 2012年5月18日(金)～20日(日)
- 集合 第一集合場所 マミヤカメラクラブ事務局
第二集合場所 東京駅八重洲口 八重洲ブックセンター前
- 指 導 川太 泰夫
- 参加費 68,000円(税込)
- 予 定 ○5月18日

8時30分・マミヤクラブ事務局(第1集合場所)集合・出発
9時・東京駅八重洲口ブックセンター
(第2集合場所)集合・出発、15時・月山着・月山の森撮影

○5月19日
終日・月山の森撮影
○5月20日
午前・月山の森撮影 12時・出発 18～19時・東京着

- 宿泊先 志津温泉・まいづるや
- 備 考 移動はチャーターバス(中型)となります。
※スケジュールは天候、講師等の判断により変更される場合があります。ご了承ください。



川太 泰夫(かわた やすお)
1943年東京生まれ。日本山岳写真家協会会員。日本リンホフクラブ副会長。フォト工房カワタ代表。大判カメラで尾瀬、八ヶ岳、北アルプスを積極的に取材。また近年は日本全国のブナ林を撮影。ワイス・Fuji GF670 ワークショップ講師。マミヤ RB67 所有。

月山(がっさん)は、山形県の中央部にあり出羽丘陵の南部に位置する標高 1,984m の火山で日本百名山のひとつでもあります。標高 1,500m の湯殿山、418m の羽黒山とともに出羽三山のひとつに数えられ修験者の山岳信仰の山として知られています。山頂には月山神社が在り多くの修験者や参拝者が訪れます。山の姿は山形盆地、庄内平野、最上地方からよく見える。豊富な残雪のため、国内では乗鞍岳や立山と共に夏スキーが可能な山としても知られています。



※写真は 2011 年 5 月に川太泰夫氏撮影。

製品情報

ワイズオリジナル『かさお君・ワイド』

雨が降ったらカメラは出さないといい方もいますが、雨の時こそ森の木々や草がしっとり美しく、霧が出て幻想的な雰囲気になったりと最大の撮影チャンスになります。そこでおすすめなのが、ワイズクリエイトオリジナル「かさお君・ワイド」です。ワンタッチで三脚に取り付けが可能で、傘の下でカメラ機材を濡らさず、構図確認、フィルム交換、レンズ交換することができます。



「かさお君・ワイド」

- フレキシブルアームを採用。
- 高級折り畳み傘を使用。
- 三脚の太さを選ばず専用クランプでがっちり固定できます。
- アームと傘をワンタッチジョイント方式採用で、さっと傘を引き上げればブレの心配もなく撮影できます。
- 480gと軽量、三脚に付けたまま移動可能。
- フレキシブルアームに「かさお君用プレ止め」を装着してプレ止め装置にも。
- 晴天時には傘を晴れぎれに利用できます。
- ワイズ価格 13,500円（税別）14,175円（税込）

「かさお君用プレ止め」(新製品)

- 望遠レンズや低速シャッター時のプレ止めアクセサリ。
- かさお君・ワイドのフレキシブルアームに取り付け。
- ワイズ価格 5,600円（税別）5,880円（税込）
 一個一個職人さんが削り出して作っています。スプリング内蔵で適度にテンションが掛かり抜群の安定を誇ります。使用方法はかさお君に傘をセットする要領で取付け、スプリング部分を調整しながらレンズをサポートします。

山岳写真にネイチャーフォトに
カメラザック・ラムダ



special sale

新発売!

ラムダシステムザック燕岳 645・ラムダシステムザック燕岳 35

風景や山岳の写真撮影旅行を想定したシステムザックの自信作完成です。カメラ機材を効率良く、安全に収納、持ち運びできるザックです。取り外し可能な雨蓋、折りたたみ式サイドポケット、前蓋フルオープン式を採用等、使い勝手が一段とアップしています。「システムザック燕岳 645」は中判、大判カメラにも対応。また、「システムザック燕岳 35」はサイドポケットを外せば機内持ち込みも可能です。



システムザック燕岳 645
 定価：48,000円（税込50,400円）
スペシャルプライスをご用意
 サイズ：外寸＝高60x幅40x厚22 (cm)
 重量：3.1 kg
 容量：35～40ℓ
 カラー：ネイビー・ダークグレー・ワイン
 布地：本体＝東レライトロン
 雨蓋＝東レ#420d ナイロン
 底＝東レ#1200d 強力ナイロン

システムザック燕岳 35
 定価：42,000円（税込44,100円）
スペシャルプライスをご用意
 サイズ：外寸＝高46x幅36x厚18 (cm)
 重量：2.2 kg
 容量：20～22ℓ
 カラー：ネイビー・ダークグレー・ワイン
 布地：本体＝東レライトロン
 雨蓋＝東レ#420d ナイロン
 底＝東レ#1200d 強力ナイロン

システムザック燕岳 特徴
 ○フルオープン式前蓋。
 ○取り外し可能天蓋。
 ○天蓋内にザックカバー装備。
 ○折りたたみ式サイドポケット。
 ○見やすく、取出し容易なメッシュ内ポケット。
 ○三脚は天辺又はサイドに取り付け可能。
 ○背面は通気性の良いメッシュ素材。
 ※ザックを地面に置く場合、天蓋を枕のように支えると背面が汚れません。

3月1日発売 ●予約受付中!

※「かさお君・ワイド」「ラムダザック」のお買い求めはマミヤカメラクラブ事務局（ワイズクリエイト）まで。

撮影会予告

詳細決定次第 HP で。ご期待下さい!

伊豆・天城の森撮影会

《自然林の宝庫・天城を訪ねる》

写真集「天城」「天城山」などを出版され、伊豆・天城を精力的に撮影する写真家・曾我定昭さんの撮影会です。天城山のヒメシャラや広葉樹の新緑や花、紅葉写真と天城を知り尽くしている曾我定昭さんならではの撮影スポットにご期待ください。

- 開催日 2012年11月9日（金）～10日（土）
- 指導 曾我 定昭
- 撮影地 天城の森



※計画のためスケジュール等に変更がある場合もあります。

フィルム現像・プリント

会員限定宅配サービス

毎日プロラボよりピックアップサービスのあるマミヤカメラクラブ事務局では、お近くにフィルム現像・プリントのできる写真店が無い会員様へ、お送り頂いたフィルムをプロラボ現像・プリントしてお送りするサービスを致しております。1. (お客様) フィルムと現像指示書をお送りください。2. (事務局) 現像・プリント依頼。3. (事務局) 仕上がり後に宅配便、又はレターパックで郵送。4. (お客様) 同封の郵便局振込用紙で代金をお支払いください。

会員価格一例 (税込) : リバーサル現像 ノーマル 120=480円 リバーサルプリント = 六切 1,848円
 リバーサル現像 ノーマル 220=960円 リバーサルプリント = 四切 2,940円

※事務局に届いた曜日により仕上がり日数が変わります。※現像・プリント価格は2012年2月現在のものです。(価格改定により予告なく変更することがあります。)※送料、振込手数料はお客様負担となります。※ご不明な点等、詳細は事務局までお問い合わせください。

マミヤカメラクラブ事務局を運営するワイズクリエイトのご紹介。

伝統あるマミヤカメラクラブ事務局を2011年6月16日より運営させていただいております株式会社ワイズクリエイトにつきまして移管第一号となります会報誌にて紹介させていただきます。今後のクラブ運営につきましてはマミヤ・デジタル・イメージング社のご指導、アドバイスを尊重し従来と同様にクラブ会員の皆様から支持される事務局を目指したいと思っておりますので宜しくお願い致します。



株式会社ワイズクリエイトは写真を通じて人と人、人と自然とのコミュニケーションを確立する事を目的とするフォトオフィスです。'99年に東京・中央区で創業し'03年10月よりオフィス並びに大判カメラ専門ショップを文京区本郷3丁目に移転。大判カメラ機材全般の販売はもちろん「ワイズ」ブランドの写真機材も取り揃えています。また自然・山岳写真家による写真セミナー、撮影会の開催、写真集の出版、写真レンタル、各種制作等よりパワーアップし写真に関するソフトとハードあらゆる業務を行っています。その他ワイズ大判写真の会、日本リンホフクラブの運営や商品、建築、ポートレート撮影など全ての分野での撮影業務も行ってまいります。クラブ会員のご来店にはコーヒーサービスも行っています。詳しくは下記ホームページを参照ください。

- http://www.yscreate.co.jp (ワイズクリエイト)
- http://www.linhof-club.com (日本リンホフクラブ)
- http://www.ohban4x5.com (大判カメラの全て)
- http://www.hongo-kaiwai.com (本郷・湯島界隈)
- http://www.yanesen-kaiwai.com (谷中・根津・千駄木界隈)
- http://www.mukoujima-kaiwai.com (向島・業平・押上界隈)

編集後記

マミヤカメラクラブ事務局がワイズクリエイトに移管されて初の会報「Mamiya Galley」の発行です。未だ手探りの編集となりますが如何でしょうか？編集モットーは会員の皆様のご意見、ご希望が反映されるコミュニケーションツールとしての会報誌です。ですから今後も「こんなふうにしたら良い」「こんなのを載せて」など何でも良いのでお便りをお寄せください。また、自分の作品を掲載して欲しいなども大歓迎です。暫くは不慣れた事務局運営でご迷惑をおかけする場面もあるかもしれませんが、今後とも宜しくお願い致します。

マミヤカメラクラブ事務局 木戸 嘉一

Mamiya Galley20号
 2012年3月1日発行
 発行：マミヤカメラクラブ事務局
 制作：ワイズクリエイト
 編集：木戸嘉一 鈴木麻子
 ※掲載の写真・記事等を許可無く複写・転載することを禁じます。